

1 計画の基本的事項

1 計画の中間評価にあたって

●知立市は、江戸時代より宿場町「池鯉鮒」として栄えた歴史あるまちで、様々な文化芸術が創造され、継承されてきました。2018年には、一人ひとりが文化芸術とともに生きる豊かな地域社会の形成を目指し、知立市文化芸術基本条例を制定し、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、2021年に知立市文化芸術推進基本計画を策定しました。2025年は、この計画の5年目にあたることから中間評価を行いました。

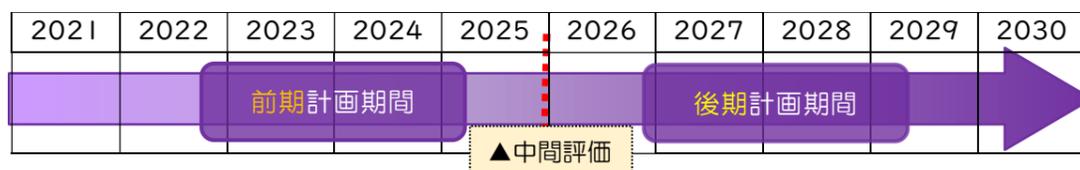
2 計画の位置づけ

●本計画は「知立市総合計画」、「知立市文化芸術基本条例」に基づく計画です。国の「文化芸術基本法」第7条の2「地方文化芸術推進基本計画」、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」第7条「地域の特性に応じた施策」、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」第8条「地方公共団体の計画」にあたります。その他、関連する市の計画とも整合を図ります。

上位計画	▶ 知立市総合計画
条例	▶ 知立市文化芸術基本条例
国の法律	▶ 文化芸術基本法 ▶ 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律 ▶ 障害者による文化芸術活動の推進に関する法律 ▶ 音楽文化の振興のための学習環境の整備等に関する法律
整合性を図る市の計画	▶ 歴史文化基本構想、彫刻のある風景づくり推進計画、観光振興計画等

3 計画の期間

●2021年度を初年度とし、概ね10年間を計画期間とします。ただし、計画の5年目の中間年（2025年）には市民アンケート調査を行い、その結果や統計の動きを確認します。



4 基本的な考え方と施策

知る 育む 心を結ぶ 文化芸術を身近に感じるまちづくり

3つの基本施策

だれもが鑑賞・参加・創造できる環境づくり

歴史・文化財を大切にすまちづくり

文化芸術を支える基盤づくり

5つの重点施策

- 子どもが様々な文化芸術に親しむことができるまち
- 「知立の山車文楽とからくり」の継承・活用
- 障がい者の文化活動の機会の充実
- 文化芸術を通じた多文化共生への試み
- 多様な情報発信

2 中間評価

1 社会情勢や国・県・市の動向

新型コロナウイルスの世界的な蔓延

- ▶ 2020年から2022年まで、文化芸術活動は活動自粛を迫られ、大きな影響を及ぼしました。
- ▶ 先を見通すことができない閉塞感の中、文化芸術は人々の心の支えとなり、生活に楽しみや潤い、活力を与えていることを再認識させられる機会ともなりました。

SDGsの推進

- ▶ 2015年国連サミットにおいて、2030年までに目指すべき国際目標「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」が採択されました。
- ▶ 文化芸術の分野においては、市民誰もが等しく文化芸術に関わることのできる社会を目指すなど、SDGsを推進していくことが求められています。

高齢化の進展

- ▶ 本市の人口は、2025年は過去最高（72,646人）となりましたが、人口はピークを迎えつつあります。
- ▶ 少子化傾向はみられませんが、65歳以上人口は増加を続けており、高齢化は着実に進行し、地域コミュニティの衰退と文化芸術の担い手不足が大きな課題となると考えられます。

国の動向	▶ 2023年に、2027年度までを計画期間とする「文化芸術推進基本計画（第2期）」が策定されました。
県の動向	▶ 2022年に、2027年度までを計画期間とする「あいち文化芸術振興計画2027」が策定されました。
市の動向	▶ 2021年に、「SDGs未来都市」に選定をされました。 ▶ 2025年に、市政運営の方針やまちの将来像を定めた、「第7次知立市総合計画」を策定しました。

2 中期評価指標の動き

項目	単位	策定時 2020年調査	実績値 2025年調査	目標	評価
全体					
知立市を「文化的である」「どちらかといえば文化的である」と感じる人の割合	%	31.4	35.1	↑	○
文化芸術に「とても関心がある」「どちらかといえば関心がある」人の割合	%	59.2	81.5	↑	○
基本施策1：だれもが鑑賞・参加・創造できる環境づくり					
文化会館のコンサートや公演「見たことがある」（30～39歳）人の割合	%	(全体) 42.2 (30代の人) 22.8	(全体) 55.4 (30代の人) 28.1	↑	○
1年間に創作・練習・発表などの文化活動に参加している人の割合	%	(全体) 29.4 (60代の人) 31.4	(全体) 43.9 (60代の人) 48.9	↑	○
しみん芸術祭を「見たことがある」人の割合	%	(全体) 19.3 (30代の人) 7.6	(全体) 30.1 (30代の人) 8.3	↑	○
基本目標2：歴史・文化財を大切にすまちづくり					
歴史民俗資料館の年間入館者数	人	23,028 (2018年度)	20,059 (2024年度)	↑	×
知立の山車文楽とからくりを「見たことがある」人の割合	%	(全体) 60.0 (30代の人) 39.1	(全体) 66.6 (30代の人) 55.2	↑	○
基本目標3：文化芸術を支える基盤づくり					
文化芸術がまちづくりや福祉・教育に活用されているについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合	%	31.0	41.3	↑	○
イベント・コンサート・発表会など様々な文化芸術情報が入手しやすいについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合	%	37.0	49.6	↑	○

2 中間評価 (つづき)

3 現状と課題

1 市民の文化芸術活動

- ▶ 文化芸術への関心について、「どちらかといえば関心がある」「とても関心がある」と答えた市民が、前回よりも増え、文化芸術に関する関心の高まりがみられます。
- ▶ 直接鑑賞する上で困ることとしては、今回は「費用」の問題が最多となり、物価上昇などの経済環境が、鑑賞を行う上でのハードルを高く押し上げていることが示唆されます。
- ▶ 文化活動をする上で困ることとしては、前回と同様に「時間」、「きっかけがない」という回答が多くを占めました。

2 伝統文化・歴史

- ▶ 前期計画期間中には、2023年に「知立の松並木」が県指定文化財、2021年に萬福寺の「方便法身尊像 附 裏書」が市指定文化財に指定されたほか、2024年に牛田八幡社が国の登録文化財として登録されました。

3 文化芸術を支える基盤

- ▶ 知立まつりは多くの関係者の努力で継続されていますが、将来の少子高齢化社会におけるまつりの存続について危惧する声も聞かれ、後継者の育成や組織作りを推進する必要があります。
- ▶ 市民アンケートでは、これまで文化会館に行ったことのある市民は約8割、歴史民俗資料館で約6割となっています。また、本市の文化芸術環境について、鑑賞したり、活動したりするための文化施設があることについて、一定の評価を得ています。
- ▶ 文化会館の事業、彫刻のあるまちづくりをはじめ、認知度は高い状況にあり、総じて前回よりも高まっているといえます。
- ▶ SNSやホーム・ネット検索による情報の入手が前回より一般的になってきており、雑誌や新聞等の影響力が小さくなってきています。情報の発信手段について、受け手を意識した手段を用いる必要があります。

4 関連分野との連携

- ▶ 市民アンケートでは、文化芸術を活かす分野について、「まちづくり」「子どもの教育」「観光」について多くの回答がみられ、前回と同様の傾向となりました。
- ▶ 文化芸術を活かす分野について「まちづくり」については、18歳以上の市民に強く重視されている一方、「子どもの教育」については子育て世代となった30歳代の市民が強く重視しています。

4 中間評価のまとめ

- 前期計画期間においては、「知る 育む 心を結ぶ 文化芸術を感じるまちづくり」を基本理念とし、3つの基本施策と5つの重点施策により、文化芸術の振興を推進してきました。
- 前期計画期間の5年の中では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、文化芸術活動そのものが困難となりましたが、文化芸術の価値を今まで以上に、みなが再認識した5年間となりました。
- 社会情勢からは、SDGsの考え方に代表されるよう「多様性」や「持続可能性」について重要性が認識され、知立市のまちづくりの観点からは、引き続き、文化芸術は重要な資源と捉えられています。
- 中間評価に伴い実施した市民アンケートの調査結果は、良好な結果となりました。設問のなかで、市民の関心のある分野や、各活動の障害となる点、力を入れるべき点は、概ね前回と同様でしたが、物価高騰など経済状況の変化が、今後の文化芸術活動に影響を与える恐れがあり、注視していく必要があります。

- 市や各団体における文化芸術の振興が一定の成果を上げていると考えられます。
- 物価高騰など文化芸術活動へ影響を与える変化に注意を払う必要がありますが、社会情勢の変化に注視をしつつ、2030年の目標年に向け、今後5年の後期計画期間においても、引き続き本計画の施策を推進していくことが望まれます。

3 アンケート調査 (抜粋)

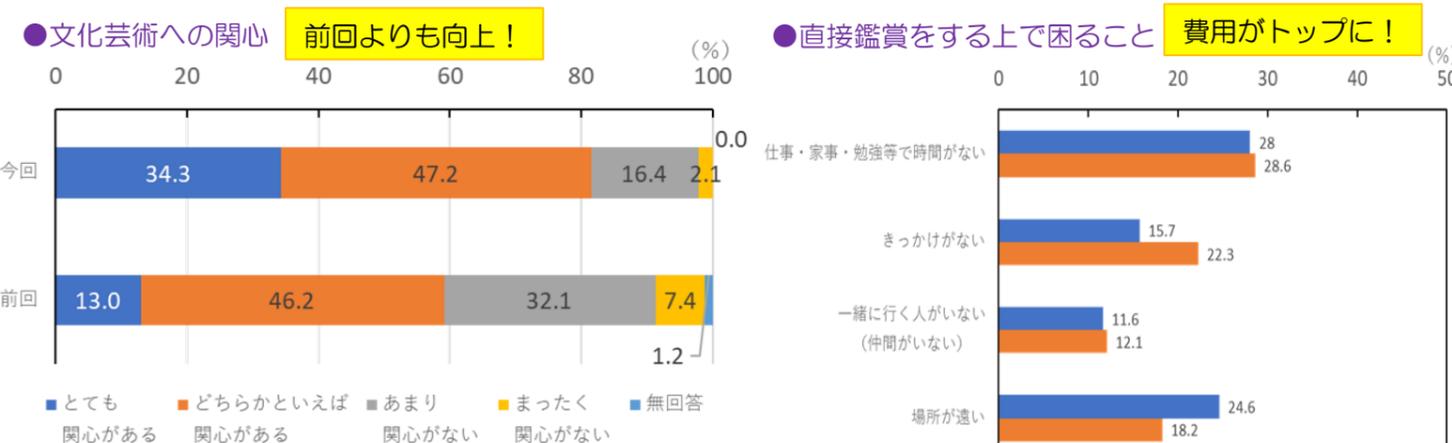
1 調査の概要

「文化芸術推進基本計画」は、2025年度に計画期間の中間年(5年目)を迎えることから、市民アンケート調査を行いました。

対象	市民等(18歳未満の者や、市外在住者も回答可とする)
調査方法	インターネットによる調査(一部施設には、紙の調査票を設置)
調査期間	2025年4月25日(金)~5月25日(日)
回答数	1,105件(うちインターネット1,034件、紙の調査票71件)
設問	回答者の属性、知立市の文化芸術、直接鑑賞、創作・練習など文化活動、文化活動の支援、文化芸術の推進について

- ※ 2020年調査(以下、「前回」という)では、無作為に抽出した市民に郵送により調査票を配布しているほか、「18歳未満」「市外在住者」が対象外となっているため、調査形態が2025年調査(以下、「今回」という)とは一部異なる。

2 主な調査の結果



●市内の文化芸術情報の入手方法 SNS、ネットが急上昇!

項目	今回 (%)	前回 (%)
①市の広報	74.0%	73.0%
②チラシ・ポスター・パンフレット	33.3%	35.5%
③SNS	26.0%	1.9%
④ホームページ・ネット検索	20.5%	7.3%
⑤知人・友人・家族など人から	18.6%	19.5%
⑥雑誌・情報誌・タウン誌	9.3%	19.0%
⑦新聞	5.7%	11.1%

直接鑑賞・ホール、劇場、美術館、映画館などに実際に行って鑑賞をすること

お問い合わせ先

知立市教育委員会 文化課文化振興係
 〒472-0053 知立市南新地2-3-3
 TEL : 0566-83-1133
 E-mail : sir yokan@city.chiryu.lg.jp

● 中間評価報告書はこちら

知立市ホームページ「文化芸術推進基本計画」
<https://www.city.chiryu.aichi.jp/soshiki/kyoiku/bunka/gyomu/2/1617347546397.html>

